

解に徹したことは注目に値いする。

日本佛教藝術の中において淨土教美術と相對して考えられるのは密教美術であるが、佐和氏の『密教美術論』は、とくに難解な密教儀軌の研究に永く没頭されて完成されたものである。密教美術という甚だ理解の困難な問題を、とくに觀音不動を中心に、その儀軌・信仰の變遷に伴う藝術的表現の變化の跡を檢討し、廣く中國その他の原初的なものにまで言及し、民族宗教の佛教受容に伴う佛教藝術表現形態の變遷過程を説明しようとしたものである。就中、永く秘寶とされていた岡城寺藏黃不動・觀心寺藏如意輪觀音の説明をみることは意義がある。そして、密教的佛・菩薩の量的に豊富な密教美術の特質を、佛教自體の獨自の發展によつてなしたものではなく、印度教及びその他の民間信仰の神々との接觸交渉によつて成立したもので、「密教に於いて印度教が佛教化され」印度教的表現が佛教的表現に展開していく過程を示したものであるとされた。

兩著の説くところは、ともに佛教藝術の究明にあつたが、それぞれ淨土教・密

教の特質を中心に検討を試みたわけであるから、淨土教・密教に關する限り十分に説かれているが、佛教藝術の説明に十分でない。しかし、このことがまた個々の研究の不十分な點に指摘されるのであつて、例えば、密教美術は量的に豊富な佛・菩薩等が統一的に密教儀軌の中にまとめられる姿を捉えるのでなければならぬ筈であり、つまり密教における曼荼羅の表現の藝術學的解釋を必要とする。

石田氏の著書の場合、淨土教教理史の精密な検討とともに、淨土教信仰の藝術的表現が具體的にどのようであつたか、つまり、藝術作品をオーソドックスな美術史研究史の立場をある程度考慮しなければならぬと思う。しかし、兩著が難解な佛教藝術研究の上に、從來のそれとは異つた新しい研究の理論と方法を導入したことは、向後學會に寄與するところ大なるものがある。

(淨土教美術・平樂寺書店刊・九五頁・A5百圓)

(密教美術論・京都便利堂刊・二一六頁・圖四二頁・B5・八五〇圓)(高橋)

◆ 冠導阿毘達磨俱舍論索引

舟橋水鼓編輯
舟橋一哉増補

◆ 先年、本學研究室で謄寫印刷發行されたものの出版である。阿毘達磨諸論書の中心である俱舍論の項目索引は多年要望せられるものであつたが、舟橋一哉教授が故舟橋講師の草案に基き増補完成されたものである。項目に参照を附し、畫引檢音索引を巻頭に設け、項目の巻・頁・面を算用數字・英字で見易くしてある等の種索引としては至便のものである。(三十一年四月刊・27×19.5cm・五百圓・法藏館)

◆ 御傳鈔講話

岩見 護著

御傳鈔上下卷の各段に従ひ、「少年出家」より「大谷の本廟」まで二十三項目に互つて宗祖親鸞聖人の業蹟をたどると共に、著者の宗祖觀を表出したものである。平明な文章と共に著者の聖人讃仰の書でもある。(三十一年四月刊・A5・二八二頁・三百圓・大谷出版社)

◇ 悲喜交流

名畑 應順著

「六粟鈔」に出ずる悲喜交流の語が標題とされた本書は、著者の日々の信仰生活の集録である。「大事を思ふ」他十八項、夫々生活上の機縁をとらへて、或ひは聖經に基き、或ひは妙好人の故事を泛べて著者の信仰が語られている。(三十二年四月刊・B6・二三〇頁・二百圓・永田文昌堂)

彙報

眞宗學會

◇ 新人生歡迎會

五月二十三日 午後三時 於會議室

出席者 名畑・稻葉・日野・藤原教授

上杉・細川助手・外副手學生五十名

◇ 第一部(文學部主催)例會

五月三十日 午後三時 於會議室

發表者 信じ得ざる惱み

四回生 上藤 俊夫

教行信證阪東本の筆跡に就て

日野環教授

出席者 武生・藤原教授、上杉・細川

助手、他副手學生四十餘名

◇ 見學旅行

六月十七日 磯長太子廟及び當麻寺等

參加者 二村教授以下五十五名

道明寺——磯長御廟・救福寺——當麻

寺——久米寺——榎原神宮——京都

◇ 第二部(大學院主催)例會

六月二十一日 午後三時 於研究室

發表者

一、眞宗教學に於ける「力」の意義に

就て 修士課程一回 越本玄雄

一、二河譬における忽然の問題

博士課程一回 藤 光永

出席者 上杉・細川助手・永田・廣瀬

・幡谷副手他大學院學生十五名

◇ 輪讀會(大學院學生主催)

六月二十三日 午後三時 於研究室

テキスト 叢林集

指導 上杉助手

◇ 六月二十七日 永田副手諸種の事情に

よつて辭任せられる。

◇ 輪讀會(叢林集)

六月二十八日 午後三時 於研究室

指導 細川助手

佛教學會

◇ 五月九日 新人生歡迎會 於大徳寺眞

珠庵 山口・山田・横超・舟橋・富貴

原教授以下二十數名出席。山口教授よ

り歡迎の挨拶があり、會員一同の自己

紹介の後、歡談數刻、眞珠庵内を見學

して午後五時散會。

哲學倫理學會

◇ 六月十六日(新人生歡迎會及び例會)

「愛と認識」

出席者 世良・立花教授外十五名

河瀬 教授

宗教學會

◇ 宗教學會例會

日時 六月二十三日

研究發表

「信ぜんとする意志」に就て

草野 憲一

出席者 坂本・福原兩教授他先輩學生